

春のひかり

春の光はいのちを生かす仏さまの慈悲です。凍てた土から休眠打破して虫たちがうごめき始め、種が割れ、芽が吹き出し、たちまち野山が緑に染まっていく春の訪れは、すべての生命を陽気にさせます。生命の活力は光なくてはありえません。光は闇を破り、活力を与え、成長を助けます。光は宇宙の波動です。このリズムが狂えば、花の形がくずれ、色があせします。

人間もこれと同じで、生活リズムが正しく律動していれば陽気に暮らすことができますが、人生に光がなければ、希望は失い、気分が沈みます。私たちの身体は光の明暗によって、健康を保ったり、病気になったりします。また、心を明るくほがらかにすることが、若さと長寿の秘訣となります。

ところで、太陽の光線と仏さまの光明は、光の性質がちがいます。太陽は物体の裏に陰をつくりますが、仏光は陰を投影することがありません。さわりも、さまたげもありません。悪を照らし、ゆがみを正します。仏さまはすべての闇を破りますから「遍照^{へんじょう}」といいます。仏さまに照らされてこそ、新しい道がひらけます。

悲しいときに合掌すれば、やすらぎがわきます。うれしいときに合掌すれば、よろこびが深まります。合掌は仏の姿であり、仏の光だからです。遍照は苦を抜き、楽を与え、智慧を授けます。これによって問題解決の糸口を悟ることができるわけです。

合掌は、仏さまの慈光を両手いっぱいにおいて、生かされているいのちを自覚し、今まさに花ひらこうとしている蕾のポーズです。

仏さまは自由自在の^{だいこう}大空をのみこんでおられます。陽光を浴びながら、花に、新緑に、野山に、まぶしい天地にこころを遊ばせて春を謳歌したいものです。